

平成 26 年度 北小学校区 第 2 回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

10月29日(水)に開催された「北小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
芝本町町内会	東壱町田町内会	北小学校 PTA
中央町2区町内会	エコリーダー	北中学校
合同宿舍文教住宅自治会	民生委員・児童委員	子ども会連合会
文教町西町内会	消防団第4分団	学校支援地域本部
シャルマンコーポ町内会	北幼稚園	地域包括支援センター三島
文教町東岩崎町内会	北幼稚園 PTA	芝本町子供会
壱町田2丁目自治会	北小学校	

※当日参加者 24 名

会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」について、
参加者の意向を伺いました。



【会場アンケート結果】

テーマ別会議
①小学校を軸とした地域防災の連携強化の方法を考えよう! 11 人
②地域と大学生について考えよう! 1 人
③地域内の組織がつながる方法を考えよう! 9 人
④その他 2 人

※テーマ①を中心に参加者全員で話し合いました。(別紙「テーマ別会議まとめ」参照)

協議会設立の意向
①協議会に向けた取組みを進めたい . . . 6 人
②連絡会を継続したい 12 人
③その他 3 人

- 団体より校区の皆さんに情報提供・協力をお願い—**
- 文教町西町内会：北幼稚園の園庭花壇を菜園化(野菜づくり)。町内有志がボランティアで支援。
 - 北幼稚園：野菜作りが命を育む教育に役立つ。親と地域の方の交流の機会にもなっている。
 - 子ども会連合会：子ども会が将来の成年会や老人会に移行する。子供の時に様々な経験を積ませたい。
 - 北中学校支援地域本部：委員会が立ち上がった。今後、地域の方の力をお借りしながら実行していく。
 - 壱町田2丁目自治会：壱町田 1 丁目と 2 丁目で、66 年かかって初めての合同防災訓練を実施した。

テーマ①「地域防災の連携強化の方法を考えよう！」

●「子ども」「大学生」「高齢者」「地域(親)」が地域防災に関わった時、「どんな事ができるか?」「どんな防災訓練プログラムがいいか?」など参加者全員から出されたアイデア・ご意見をまとめました。

「子ども」 を対象にした地域防災

子供に何を教えたいか?
体験させたいか?

★子供達の防災意識向上を目指す

- 自分の命は「自ら守る」を徹底する。 
- 過去の(災害)体験話を、小・中学校で話す。身近な事例を子ども達に伝える。
- 「津波てんでんこ」意識の実践。

★責任、役割を持たせる

- 小学生だけの避難シミュレーションを行う。
 - 子どもたちで災害時できることを考えてみる。
 - 小学生からスタートさせる。
 - 小・中・高・大学同時の防災訓練の実施。全員を一ヶ所に集める。
- ⇒上の子が、責任を持って下の子の面倒をみる意識を目覚めさせられるのではないかと。
- 子ども達自身にやらせることで、責任感を持ち子ども達は生き活きとしてくる。

★訓練プログラムのアイデア

- 子どもと大人で炊き出し訓練＝遊びながら楽しく時間を共有する。←町内にアウトドアサークルを作って実施している。
- いざという時(防災、災害)に生き延びるテクニックサバイバル教室。遊びを混ぜる。
- 消防団第4分団の防災訓練で、応急担架等の訓練を小・中学生が前に出て実践する。
- シャルマンコーポの自主防災訓練では、AEDの操作を小中学生に指導している。継続できれば、将来看護の面で大きく役立つと思う。

★訓練へ参加を促す

- 子ども達は楽しくなければ参加しない。1回責任を持って参加させられれば…。そのプロセスをどうしたらよいか課題。
- 防災訓練を授業の単位とすれば参加し、責任をもって頑張ろうと思えるのではないかと。

餅つき大会のビンゴゲームの準備から全てを、子ども会にやってもらったところ、積極的に動き非常にうまくいった。(文教町西)

「地域全体(親)」 を対象とした地域防災

★合同訓練を開催する

- SNS、地域メールを使った防災学習会。
- 地域メールを使えば幅広く情報を知らせられる。
- 小学校区全体の防災訓練を実施したい。
- 町内の防災訓練に子ども会も参加。
- DIG研修。子ども、親、地域合同でやる。

★その他のアイデア・意見

- 昼間は子どもと女性しかいないので、女性中心の防災訓練。
- 各町内会の防災活動を合同の場で紹介しあって、情報共有する。
- 自分にできる防災活動を考える。(地域・家庭)
- 小中学校の防災学習会に参加。
- まずは地域に住んでいる人を知る。
- 消防団、連合会が小学校区と違うのはおかしい

「高齢者」 を対象にした地域防災

【高齢者の現状】

- ・地域の高齢化が進行。横の連携がありそうでない。情報交換や交流が必要。
- ・75歳以上になると訓練や行事から退いてしまう。
- ・元気老人と関わりをもってほしい。この方達を活用しない手はないと思う。

★元気老人を活用する

- 誰が昼間いる老人を助けるのか？元気老人を消防団員に！
- 高齢者が気軽に集まれる場所がありますか？元気高齢者を対象に「地域安心サポート要請講座」を開催しています。（地域包括支援室）
- 老人向けパソコンセミナーの開催。

「大学生」 を対象にした地域防災

【地域における大学生の現状】

- ・ゴミ出し、バイク等駐輪の仕方に問題あり。
- ・大学生は地域から一番離れた存在。地域に近付けるのは難しい。
- ・地元でない人も多い。数年したらいなくなるので、地域に関わらない。

解決に向け
地域と大学生
が密接に絡
んでいきたい

- ・被災時、交通ストップされ市内に居る学生は多い。お互いの助け合いが必要となるのは必然！
- ・学生を巻き込んで地域防災（自治会活動）に参加させる方法や、自治会に勧誘する方策を考えてほしいとの意見がある。

★大学・学生を地域に取り込むアイデア

- 住んでいる学生は全員住民登録をさせ、町内会員とならせることから始まる。
- 大学内に地域担当科を作ってもらい、地域に関わるようにする。

本日は意見やアイデア出しまででしたが、

本日の皆様のご意見を参考にできることから始めてみましょう！



地域防災の連携強化について話し合いを進めていく予定でしたが、話をしているうちに地域の問題として「大学生」がクローズアップされてきました。（以下○:参加者発言 ●:市発言 △:ファシリテーター発言）

★大学関係者にも話を聞きたい

- テーマに大学生のことがあがっているのに、なぜ大学関係者がいないのか？
- △大学に投げかける前に、まずは地域の中で、「学生とどの様に付き合っていきたいのか？」等話し合い、大学の誰と関わるのか、どの機関と関わるのかを含めはっきりさせるべき。また、大学(組織)と大学生(個人)は違うので、別に考えなくてはいけない。
- 大学生を呼ぶのが一番だと思うが、市長が来ているのだから学部長が来てもいいのではないか？
- 大学生を呼ぶ場合、「実際に誰を呼ぶのか？学生の代表って誰なのか？何故、学生が呼ばれるのか？」など、その理由を説明するのが筋だと思う。一旦、大学生を呼ぶ理由を皆さんから出してもらって、大学側に伝え、その後大学生を呼び、また話し合いをするという形で考えている。
- 今日、小中学校の校長、幼稚園園長たちは参加してくれている。それなら、大学の職員をとりあえず呼ぶのが筋ではないか。
- 大学は小中学校などとは少し違う存在。一度こういった意見をもらった上で大学に話しに行くので、少し時間をかけさせて頂きたい。

★「地域住民としての大学生」へ呼びかける

- 今日のこの会議の雰囲気では大学生にプレッシャーをかけてしまう。あまり過剰に期待しないで、普通に扱って、逆に向うからもっとフリーな意見をもらったらどうか。
- 誰かがコーディネートして、地域からその地域にいる大学生に対し、「何か話をしませんか？」と気軽に呼びかけ、こういった話し合いの場に引き出してはどうか。
- 大学生に「自治会に入ってください」と言う人はいない。そこから始めてみると良いかもしれない。
- 大学生は数年したらいなくなってしまうので、地域に関わらない。
- 地域にいる主婦や独身者と同じように、「地域にいる個人としての大学生」に何を期待するかによって、アクションが変わってくる。
- 具体的に大学に何かを求めるといならば、大学は地域にある企業と同じで、大学組織に投げかければいい。
- △大学は地域の中にある組織として存在しているが、大学生は地域の住民。住民登録や、自治会に勧誘するなりして、地域の中から地域の人として働きかけてみるとよいと思う。

★コミュニティ連絡会に関する意見・提案

- この会議は意見を聞くだけで、解決する気はないのか？1年に2回しかない会議で、今回(2回目)で解決しなかったら、来年は新しい会長に代わってしまう。何かしら結果を出さないと無駄だと思う。「次回は最低でも大学の職員を呼んだほうがいい」という提案を実現してほしい。